人形浄瑠璃

# 文楽（ぶんらく）はじめよう！

南海浪切ホール／大ホール

令和７年 11月21日㊎

開演 14時00分

【内　容】◎文楽ってなに？ 太夫・三味線による解説　人形の解説

◎実演「壺坂観音霊験記（つぼさかかんのんれいげんき）～沢市内より山の段」

【出演者】

＜太夫＞

豊竹 藤太夫（とよたけ とうだゆう）

＜三味線＞

鶴澤 燕三（つるざわ えんざ）

鶴澤 燕二郎（つるざわ えんじろう）

＜人形＞

吉田 簑二郎（よしだ みのじろう）
（女房お里）

吉田 玉佳（よしだ たまか）
（座頭沢市）

桐竹 紋臣（きりたけ もんとみ）

吉田 玉勢（よしだ たませ）

桐竹 紋吉（きりたけ もんよし）

吉田 和馬（よしだ かずま）
（観世音）

吉田 玉征（よしだ たまゆき）

吉田 和登（よしだ かずと）

囃子（はやし）　望月太明藏社中（もちづきためぞうしゃちゅう）

主催：公益財団法人 文楽協会　文楽協会
http://www.bunraku.or.jp

協力：大阪府教育委員会

初春文楽公演を先取り！

# 壺坂観音霊験記～沢市内より山の段

## あらすじ

この作品は、作られたのが、明治時代で、人形浄瑠璃文楽の演目の中では比較的新しい作品になります。

その昔、土佐町（今の奈良県高市郡高取町）に住む盲目の沢市は、妻お里とともに、細々と暮らしておりました。あるとき、沢市はお里が明け方になると、毎日のように出かけていることに気づき、不貞をはたらいているのではないかと疑って妻を問い詰めました。すると、お里は沢市の目が見えるようにと壺坂寺の観音様に願掛けに行っていたことがわかります。お里を疑ったことを恥じて、沢市も一緒に観音詣りを始めますが、お里のことを思うと自分がいない方が幸せになれると考え、谷に身を投げて自らの命を絶ってしまいます。沢市の死を悲しんだお里も後を追い谷に身を投げてしまいます。この二人の夫婦愛を聞き届けた観音様は・・・・

この物語は、心中物や、時代物でも悲劇的な結末の多い文楽の演目の中で、数少ないハッピーエンドの作品です。

---

# 令和8年初春文楽公演

令和8年1月3日（土）～1月27日（火）

※1月9日（金）、19日（月）は休演日

**第1部　午前11時開演**

寿式三番叟（ことぶきしきさんばそう）

摂州合邦辻（せっしゅうがっぽうがつじ）

合邦庵室の段

**第2部　午後2時30分開演**

新薄雪物語（しんうすゆきものがたり）

清水寺の段

渋川使者の段

評議の段

園部兵衛屋敷の段

**第3部　午後6時開演**

壺坂観音霊験記（つぼさかかんのんれいげんき）

沢市内より山の段

連獅子（れんじし）

※「壺坂観音霊験記」は今回と配役が異なります。

◀初春文楽公演詳細は国立文楽劇場ホームページをご覧ください。

＜国立文楽劇場 所在地・アクセス方法＞

所在地：〒542-0073

大阪府大阪市中央区日本橋 1-12-10

OsakaMetro（堺筋線・千日前線）・近鉄

日本橋駅　7番出口より徒歩1分